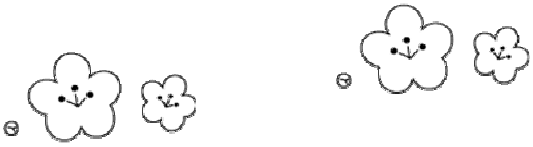
2011 年 3 月 31 日発行

点訳通信 70号

情報文化センター　点字製作係

〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作直通）
TEL 06-6441-0015(代表)　FAX 06-6441-0095



あちらこちらで沈丁花の香りが漂っており、「春」の訪れを感じます。桜の開花も待ち遠しいですね。

さて、「点訳通信 70 号」をお届けします。

2～3 月は、当センターで活動いただいている点訳ボランティアの皆様から日ごろの活動についてのご意見をいただけるよう、意見箱を設置し、また意見交換会を開きました。一時期のことではなく、今後も皆様と気軽に行き来できるように心がけていきたいと思いますので、お気づきの点や疑問などありましたら、どしどし職員までご意見をお寄せください。　（奥野）

【ゴールデンウィークに伴う休館のお知らせ】

今年は４月２９日（金）、５月３日（火）～５日（木）が全館休館となります。

ご迷惑をおかけいたしますが、活動等についてそのようにご予定くださいますよう、よろしくお願いいたします。

なお、４月３０日（土）は通常通り開館いたします。

【目次】

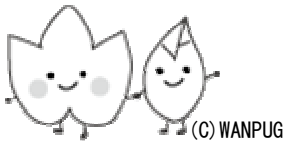
◆ 春とともに、新しい仲間が活動を開始！・・・・・・・・・・・・・2
◆ 平成 23 年度講習会・勉強会のお知らせ・・・・・・・・・・・・5
◆ 方言の分かち書きについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

春とともに、新しい仲間が活動を開始！

平成 22 年度点訳技術講習会を終えられた５名の方が、すでに今年の１月から各曜日で活動されています。

すっかり活動に馴染んでおられるようですが、まだお会いしていない皆様に５名の方からご挨拶いただきます。

（前列左から）
伍々くみ子さん
川崎安恵さん
和田俊行さん
増田芳子さん
井上ひろのさん



和田（わだ）　俊行（としゆき）さん（活動日：火曜）

諸悪の根源といわれる「団塊の世代」の真ん中生まれです。年齢的にもそろそろ仕事からの完全なリタイアに備えて真剣に何かに取り組まなければと模索しているときにインターネットで「点訳技術講習会」のことを知りました。

〔読書が好きで、文字や言葉に関心があり、作業を丁寧に行い、飽きずに活動を続けられる〕ことという受講資格を見て、こういう活動を探していたんだと大いに関心が湧きました。

自分には向いていそうとはいえ、点字の世界には全くの素人ですので不安一杯の講習会参加でした。毎回の宿題に悩まされましたが、とりわけ昨夏は猛暑でしたので点字板を使った課題は汗で点筆が滑り悪戦苦闘したことが懐かしく思い出されます。

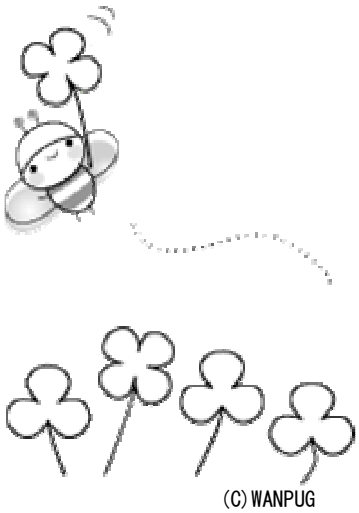
1 月からは土曜日グループで諸先輩方のご指導とアドバイスをいただいております。実際の点訳作業の中では知らないことばかりで情報文化センターに来るたびに新しい発見と刺激に満ち、密度の濃い時間を過ごしております。4 月からは新たに火曜日グループに参加させていただきますが、新しい先輩方とお近づきになれ、交流の輪が広がることを楽しみにしております。

「継続は力なり」と言います。体力的に後 5 年なのか、10 年なのか、20 年なのか分

かりませんが自分なりに地道な努力を続けていこうと思っております。
　どうぞよろしくお願いいたします。

川崎（かわさき）　安恵（やすえ）さん（活動日：水曜）

　私は地域において５年ほど「文化財ボランティア」を楽しんでいます。
　拠点となる「歴史館」は、「障がい福祉センター」と隣り合って建っているため，白杖を持つ方と出会う事が何度かありました。駅へと向かう近道は、城跡独特の道なのです。その昔、お堀だった道・短冊形の道など、私には、変化に富んで楽しい道ですが、視覚障害の人々にとっては、歩きにくい道に違いないと思われます。歩道の真ん中に「ためらひ石」と呼ばれる石まであるのですから。
　急いでいる時には、後ろを振り向きながら。時間に余裕のある時には、後方から・・・と、歩きました。点字に出会うまでは、「駅まで、ご一緒しましょうか？」の一言が、どうしても言えなかったのです。もちろん、今は大丈夫です。私が、点字を習うことにより、私の家族や友達も、視覚障害の人を身近に感じはじめたようです。私だけでなく、新しく点字を習い始めた人の周りでも、同様なのではないでしょうか。



井上（いのうえ）　ひろのさん（活動日：金曜）

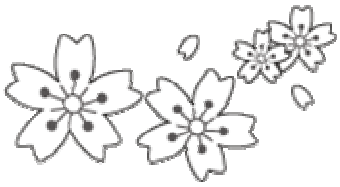
　今年から、金曜日グループに入れていただくことになりました。
　はじめてのボランティア。ですが、まだまだ当分は、グループの皆さんに、ひたすらお世話になっている日々です。
　点訳のことを考え始めたのは、去年のちょうど今頃のことでした。
　それまで、思いつくままに色々な本を読んできて、視覚に障害のある人たちの読書について考えたとき、そのお手伝いができたらと、ふと思いました。
　そして、去年の技術講習会に参加したのですが、その、点字を習得していく過程が、私にとってとても意義のあるものになりました。
　このことが、いずれ誰かの役に立つのだという、うれしさにはっとさせられたのでした。今までに長年の会社務めの経験もありましたが、なんとなく頼りない自分を常に感じていました。改めて大切なことを再確認させてもらった気がします。
　これから少しずつではありますが、経験を積んでいけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

伍々（ごご）　くみ子さん（活動日：金曜）

このたび十数年ぶりに２度目の点訳講習会を修了し、皆様にはたいへんお世話になり、ありがとうございました。

十年一昔といいますが、講習中は、変化のあった新しいルールがなかなか覚えられず、ひとつのことを理解するのにも時間がかかり、悪戦苦闘の毎日でした（今も苦戦していますが）。

でも、せっかく出戻ってきたのだから、小説だけでなく、今度は新しいことにも取り組んでいきたいと思っているところです。またまた先生方をはじめ、皆様方にはご迷惑をおかけすると思いますが、気長にお付き合いいただきますよう、よろしくお願いいたします。



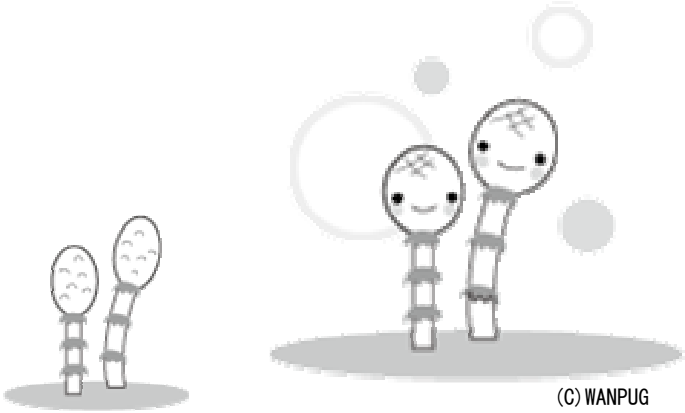
増田（ますだ）　芳子（よしこ）さん（活動日：土曜）

平成 23 年１月から土曜日の点訳ボランティアに参加させていただくことになりました、増田と申します。昨年、講座を修了し、実際に活動できることになって、嬉しく思っています。

私は、20 年ほど家事・育児のかたわら、印刷会社の文字入力をしてきました。点訳もＰＣで入力できることがわかって興味を持ち、１年前に地元の講習を受けました。６点で様々な文字が表せることに感動しましたし、初めて全盲の方と接することになった１年前の講師の先生、ライトハウスの奥野さんらのとても精力的な事にも驚きました。

ボランティア活動は初めてですが、点字によって、改めて言葉を考えさせられたり、人と出会えたり、私にとっては、一石三鳥にも四鳥にもなるくらいです。

奥野さんが、講座修了近くに言われた、「目は大切ですので、皆さん大事にしてください」との言葉が印象的でした。できるだけ永く続けたいと思いますので、皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



平成 23 年度講習会・勉強会のお知らせ

今年度、点字製作係では、さらなる技術の向上をめざした講習会や勉強会を開催します。

年間を通していくつかの講習会を予定していますので、各内容に応じて、ご参加ください。

詳しい内容や申し込みについては、日程が近づきましたら改めてご連絡いたします。

（*なお、平成 23 年度は点訳技術講習会を実施いたしませんので、ご了承ください）

●新人ボランティア フォローアップ（全３回）13 時～15 時　会議室２

水曜：第１回　５月 11 日
　　第２回　５月 18 日
　　第３回　５月 25 日

金曜：第１回　５月 13 日
　　第２回　５月 20 日
　　第３回　５月 27 日

火曜：第１回　６月 ７日
　　第２回　６月 14 日
　　第３回　６月 21 日

木曜：第１回　６月 ９日
　　第２回　６月 16 日
　　第３回　６月 23 日

土曜：第１回　６月 11 日
　　第２回　６月 18 日
　　第３回　６月 25 日

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

●校正勉強会（全４回）13 時～15 時　会議室１

第１回　７月 13 日（水）
第２回　７月 27 日（水）
第３回　８月 10 日（水）
第４回　８月 24 日（水）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

●専門点訳 処理コース（全６回）13 時～15 時　会議室１

第１回　９月２日（金）
第２回　９月９日（金）
第３回　９月 16 日（金）
第４回　９月 30 日（金）
第５回　10 月７日（金）
第６回　10 月 14 日（金）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

●専門点訳 漢文コース（全６回）10 時～12 時　会議室２

第１回　11 月１日（火）
第２回　11 月８日（火）
第３回　11 月 15 日（火）
第４回　11 月 22 日（火）
第５回　11 月 29 日（火）
第６回　12 月６日（火）

(C) WANPUG

方言の分かち書きについて

—大阪弁の場合—

◆方言の分かち書きについての考え方

方言の分かち書きについて『点訳のてびき』では次のように書かれています。

「方言の分かち書きは、共通語に準じることを原則とするが、話し言葉のリズムや省略形などを配慮しながら、方言の雰囲気を保つようにする。」(p. 57)

ここには、２つのことが書かれています。

第１に、方言の分かち書きも共通語に準じて行う、すなわち方言で書かれた文の意味を理解したうえで、それに共通語の分かち書きのルールを当てはめるということです。方言の文章の意味の理解については、とくに各方言に精通していなくても、辞書などを参考にすればある程度はできることだと思います。

第２は、その上でさらに、各方言のリズムや省略形を考慮して、その方言の雰囲気をこわさないように気をつけて分かち書きを考えようということです。しかし、とくに各方言の雰囲気まで考慮してとなると、それぞれの方言に十分に慣れ親しんでいる方でないと難しいと思われます。

なお、『点訳のてびき』には、省略形について、「補助動詞の一部が省略されたり、前の語と結びついて音韻が変化した場合は前に続けて書く」(p. 36) とあり、「行ってらっしゃい、書いてる、もらっとく、やめとけ」が例として載っています（注)。これは方言での省略形のマス空けを考える場合にも大いに参考になります。

（注)「行ってらっしゃい」←「行っていらっしゃい」、「書いてる」←「書いている」：後の語の語頭が省略。「もらっとく」←「もらっておく」、「やめとけ」←「やめておけ」：前の語の語尾と後の語の語頭が結びついて音韻変化。このような場合の省略形は続けて書くということです。

＊　＊　＊

今回方言の分かち書きの手始めとして大阪弁を取り上げますが、省略形等にも配慮しながら主に第１の原則に従って分かち書きを考えてみました。ですから、大阪弁に慣れ親しんでいる方からすれば一部しっくりこないように感じる部分もあるかと思いますが、ご容赦ください。なお、大阪弁の意味等を調べるためには主に『大阪ことば事典』(講談社学術文庫）を使いました。

それでは、いくつかの文例について点訳例を示しながら検討してみましょう。

文例１

「ここで、一服しながら、待たしてもろたらいかんやろか」

「どうぞ、かましまへん、もう持ってきてくれるはずでっさかい、まあ一服して待っとくなはれ」

「ほな、ちょっと掛けさしてもらうで、……いや、ほんまにやいやい言うてきて、すまんと思てるねん。いや、わしもこの町内、もう古いさかいな、頭さげて頼みゃァ二十や三十の金、できんこともないのやが、……」　（落語「持参金」）

◇◇「ココデ、◇イップク◇シナガラ、◇マタシテ◇モロタラ◇イカンヤロカ」
◇◇「ドーゾ、◇カマシマヘン、◇モー◇モッテ◇キテ◇クレル◇
ハズデッサカイ、◇マア◇イップク◇シテ◇マットクナハレ」
◇◇「ホナ、◇チョット◇カケサシテ◇モラウデ、◇……◇イヤ、◇ホンマニ◇
ヤイヤイ◇イウテ◇キテ、◇スマント◇オモテルネン。◇◇イヤ、◇ワシモ◇コノ◇
チョーナイ、◇モー◇フルイサカイナ、◇アタマ◇サゲテ◇タノミャア◇２０ヤ◇
３０ノ◇カネ、◇デキン◇コトモ◇ナイノヤガ、◇……」

（ラクゴ◇「ジサンキン」）

どうですか、大部分はたいして問題なく分かち書きできるのではないでしょうか。以下に問題になりそうな箇所をいくつか取り上げて解説します。

●いかんやろか

「やろ」は助動詞「だろう」なので、もちろん続けて書きます。

●かましまへん

これはちょっと難しいですね。「かましまへん」は「かまへん（＝かまわない）」の丁寧な言い方なので、大阪弁としては続けて書くのが自然なようです。「かめしまへん」も同様ですね。

しかし、「しまへん」は共通語では「しない」ですし、さらに「かましまへん」をさかのぼって考えると「構いはしません」となりますので、［カマ□シマヘン］とマス空けしても間違いとは言えません。

「かましまへん」のほかにも、「……しまへん」の例としては、「あらしまへん」「あれしまへん」「行かしまへん」「行けしまへん」「出られしまへん」「歩かれしまへん」「忘れられしまへん」「言うてもらわれしまへん」などいろいろあります。いずれも「しまへん」は続けて書いたほうが大阪弁としては自然ですが、マス空けすることも許容していいかと思います。

●待っとくなはれ

「待っとくなはれ」は、「待っておくんなはれ」の「待って」の語尾と「おくんなはれ」の語頭が結びついて「と」に変化し、また「おくんなはれ」の部分も「ん」が脱落してつづまったもののようです。ですから［マットクナハレ」と続けて書きます。（「なはる」については後述）

●古いさかい

「さかい」は助詞の「から」「ので」などと同じ意味ですから、続けますね。

文例２

「さあ、動くわいな、そら、生きてんのやさかい」
「ああ可愛らしいなあ。ええ、赤いなあ。ゆでたんか」
「ゆでるかいな。赤いさかい赤子やがな」
「ああ赤いさかい赤子か、ウン、なるほどなるほど。へえ、おい、おっちゃんお越しやす言うてみ、ほれ、こら、おっちゃんお越しやす言うてみ」
「も、何を言うてんねやそこで」
「いや行儀を教えたってんねん。こういうことは小さい間に仕込まないかんさかい」
「そんなもんがもの言うかいな」
「もの言えへんのん、かわいそうに、……」　（落語「子ほめ」）

◇◇「サア、◇ウゴクワイナ、◇ソラ、◇イキテンノヤサカイ」
◇◇「アア◇カイラシイナア。◇◇エエ、◇アカイナア。◇◇ユデタンカ」
◇◇「ユデルカイナ。◇◇アカイサカイ◇アカゴヤガナ」
◇◇「アア◇アカイサカイ◇アカゴカ、◇ウン、◇ナルホド◇ナルホド。◇◇ヘエ、◇オイ、◇オッチャン◇オコシヤス◇イウテ◇ミ、◇ホレ、◇コラ、◇オッチャン◇オコシヤス◇イウテ◇ミ」
◇◇「モ、◇ナニヲ◇イウテンネヤ◇ソコデ」
◇◇「イヤ◇ギョーギヲ◇オセエタッテンネン。◇◇コー◇イウ◇コトワ◇チイサイ◇アイダニ◇シコマナ◇イカンサカイ」
◇◇「ソンナ◇モンガ◇モノ◇イウカイナ」
◇◇「モノ◇イエヘンノン、◇カワイソーニ、◇……」
（ラクゴ◇「コホメ」）

●さかい

この文例には「……さかい」がたくさん出てきますね。

「生きてんのやさかい」「赤いさかい」「いかんさかい」、いずれも続けて書きます。

●言うてみ

これはつい続けてしまいそうですが、「言うてみ」←「言うてみろ」ですのでマス空けします。「食べてみ」「やってみ」なども同様です。また「言うてみい」「食べてみい」などもマス空けします。

文例３

「ところで旦さん、今日はお芋とねぶかのおかずで、御馳走(ごちそう)はんでおます」

「今時分になって礼を言うてる。……これ、そちは子供のくせに芋はきらいかえ」

「わて好きでんねん。お清どんがひいきぶりで太鼓の大きいとこ、二つも入れてくれてまんねん」

「外へ出したるやないか」

「へえ。これな、残しといてあとで食べまんねん。このごろ日が長いもんでっさかい、どこのおうちでもホッとせんようにいうて、おやつが出まんねん。　（落語「次の御用日」）

◇◇「トコロデ◇ダンサン、◇キョーワ◇オイモト◇ネブカノ◇オカズデ、◇ゴッソーハンデ◇オマス」

◇◇「イマジブンニ◇ナッテ◇レイヲ◇イウテル。◇◇……◇コレ、◇ソチワ◇コドモノ◇クセニ◇イモワ◇キライカエ」

◇◇「ワテ◇スキデンネン。◇◇オキヨドンガ◇ヒイキブリデ◇タイコノ◇オオキイ◇トコ、◇フタツモ◇イレテ◇クレテマンネン」

◇◇「ソトエ◇ダシタルヤ◇ナイカ」

◇◇「ヘエ。◇◇コレナ、◇ノコシトイテ◇アトデ◇タベマンネン。◇◇コノゴロ◇ヒガ◇ナガイ◇モンデッサカイ、◇ドコノ◇オウチデモ◇ホット◇センヨーニ◇イウテ、◇オヤツガ◇デマンネン」

（ラクゴ◇「ツギノ◇ゴヨービ」）

●ご馳走はんでおます

「おます」は「あります」「ございます」の意味なので、マス空けします。

同様に、「よろしおます」「よろしおまっせ」「よろしおまっ」「暑おますなあ」「えらいこっておます」「おおきにありがとさんでおます」などもマス空けします。

●好きでんねん

「でんねん」←「ですね」なので、これは続けます。

●大きいとこ

これは大阪弁というわけではありませんが、「大きいとこ」←「大きいところ」で、もちろんマス空けします。「わしとこ」「いいとこ」なども同じようにマス空けします。

●くれてまんねん

これは「まんねん」←「ますね」ですので、続けて書きます。「食べまんねん」も同じように続けて書きます。

「しまんねん」「やってまんねん」「ちゃいまんねん」「ちょっとあの手紙書いてまんねやが」なども同様に続けて書きます。

●残しといて

「残しといて」←「残しておいて」で、前の語の語尾と後の語の語頭が結びついて音韻変化していますので続けて書きます。「ほっといて」「せんといて」「せんとき」「言うとくれ」「聞いとくれ」なども同様に続けて書きます。

その他の語例

大阪弁でよく出てくる他の例について考えてみます。

●はる・なはる

「はる」「なはる」はともに「なさる」の意味で、敬意をそえる語ですね。

してはる、いてはる、やってはった、聞いとくなはれ、来てくれはる、気いつけなはれなどいろいろな場合がありますが、

［シテハル］［イテハル］［ヤッテハッタ］［キイトクナハレ］

［キテ◇クレハル］［キイ◇ツケナハレ］

と、すべて前の語に続けて書くことになります。

「どっちがきれいと思いなはる」

「社長、いてはりまっか？」「社長はもう、帰らはりました」

なども迷わず続けて書けばいいです。

●しょうもない

「しょうもない」は「つまらない、くだらない」といった意味で、「しょうもないやっちゃなあ」［ショーモナイ◇ヤッチャナア］というように、続けて書くのが自然ですね。

「しょうむない」「しょもない」も同様に続けて書けばいいです。また、「しょうない」「しゃあない」「しゃない」も続けて書きます。

●おもろない

「おもろない」は「おもろい（面白い）」の連用形「おもろくない」のことですので、［オモロ◇ナイ］とマス空けしたほうがいいです。

一般に大阪弁では、形容詞の連用形「……くない」「……くなる」は、「……ない」「……なる」のように、「く」がなくなって語幹に直接「ない」や「なる」が続くようになります（長音化して「ない」「なる」が続く時もある）。

「おもろくない」→「おもろない」、「おもろくなる」→「おもろなる」

「冷たくない」→「冷たない」、「冷たくなる」→「冷たなる」

「うれしくない」→「うれしない」、「うれしくなる」→「うれしなる」

「えらくない」→「えらない」、「えらくなる」→「えら（えらぁ）なる」

「暑くない」→「暑ない」、「暑くなる」→「暑（暑う）なる」

いずれも、

オモロ◇ナイ　　オモロ◇ナル

ツメタ◇ナイ　　ツメタ◇ナル

ウレシ◇ナイ　　ウレシ◇ナル

エラ◇ナイ　　エラ◇ナル（エラア◇ナル）

アツ◇ナイ　　アツ◇ナル（アツー◇ナル）

のようにマス空けしましょう。

なお、動詞の連用形でも同じように「く」が脱落して「見たない」「聞きたない」などのようになりますが、この場合もマス空けします。

●どんならん

「どんならん」は、「どうにも仕方がない、困る、いけない」といった意味で、大阪弁ではよく使われますね。

「そんなことしたらどんならん」

「祇園で遊びほうけてどんならんわ」

など、続けて書くのが自然ですね。（ただしこれも、「どんならん」←「どうもならぬ」とさかのぼって考えれば、マス空けしても間違いとは言えないでしょう。）

ちなみに、大阪弁では「ならん」を動詞に続けて使う時は、「行かんならん」「読まんならん」「せんならん」などのようにも使いますが、この場合はマス空けしなければなりません。

「テレビも見んならんし、ご飯の支度もせんならんし、せわしないこっちゃな」

［テレビモ◇ミン◇ナランシ、◇ゴハンノ◇シタクモ◇セン◇ナランシ、◇セワシナイ◇コッチャナ］

もそうですね。

●いてまう

「いてまう」は、「行ってしまう」から「いてしまう」になり、さらに「いてまう」と略された言い方なので、続けて書きます。意味としては「やってしまう」ということだそうですが、

「いてまえ」（やってしまえ、やっつけてしまえ）

「いてもうたろか」（痛い目に遭わすぞ、ボコボコにしてやろうか）

「とうとういてまいよった」（やられてしまった、死んでしまった）

など、いろいろな使い方があるようです。いずれも続けて書きます。

同じように、「……てしまう」が「……てまう」につづまった言い方として、

「はよ来な食べてまうで」

「はよせんと置いて行かれてまうで」

などもありますが、これらも

［ハヨ◇コナ◇タベテマウデ］

［ハヨ◇セント◇オイテ◇イカレテマウデ］

のように続けて書きます。

●どないしょ

「どない」は「どう、どのように」という意味なので、

「あの子どないしてるやろか」

など、「どないする」は当然マス空けします。

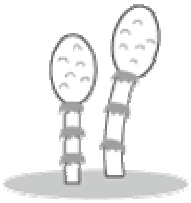
では、

「こないぎょうさんもろてどないしょ」

「どないしょ、えらいこっちゃ」

などの「どないしょ」はどうでしょうか。

「どないしょ」は、「どないしよう」から「どないしょう」さらに「どないしょ」となったと考えられますから、共通語のマス空けのルールに従えばマス空けして良さそうです。でも、大阪弁のリズム・雰囲気からすれば、［ドナイショ］と続けたほうが適切なように思います。なかなか難しいですね。



皆さんいかがでしたでしょうか。

大阪弁に限らず、いろいろな方言の分かち書きを考えてみる際のヒントになればさいわいです。

(C)WANPUG